

(提案書 様式①-1)

## 協働の機会提案書(新規提案用)

平成 29 年 7 月 26 日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 29-003

名称 印西ふるさと案内人協会

所在地 印西市小林北

代表者職氏名 会長 西田 裕子

連絡先

⑩

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターン
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>現在、印西市は博物館や美術館を持たないため、歴史や文化を内外に発信する方法には限りがある。当市独自の貴重な文化を継承し発展させるためには、まず多くの人にそれを知ってもらう必要がある。地域の歴史や文化を学ぶことはふるさとへの愛着にもつながることだ。</p> <p>歩けば、自然がいっぱいあり、あわせて文化財を上手く活用することによって、印西市の魅力をよりパワーアップして市内外に PR できるものと思う。</p>
提案理由	平成元年から 20 年まで 20 回にわたって実施された「木下街道膝栗毛」(以下「膝栗毛」とする)は惜しまれながら終了したが、かつての盛大だった「膝栗毛」をもう一度、と熱望する声も多い。平成 30 年という節目の年に、市民参加の大きな事業として復活させたい。
提案内容 (予算の概算も記入)	かつての「膝栗毛」は「評定委員会」が中心となって各種団体の協力を仰いでいたようだ。本事業でも、協力してもらえる団体や、計画段階からの市民参加を募り、プロジェクトチームを作って進めていきたい。衣装着用も一案。第 1 回のコースをたどるのも一案。接待も趣向を凝らしたものにしたい。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	当会は「膝栗毛」をお手伝いする参加団体のひとつであり、「膝栗毛」が 20 回で終了した後も、平成 21 年からその名称を受け継ぐ形で小規模ながら毎年実施してきた。しかし、現会員 22 名の案内ボランティア団体では参加者の定員を 100 名程度にせざるを得ず、過去の「膝栗毛」のノウハウを持っている市や観光協会のリードが不可欠である。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	印西市の歴史や文化に対する興味関心が、ひいては文化の継承や新しい発展につながりうると期待する。ニュータウンと既存の地区を有する当市の実情も、古い歴史や文化の理解が深まれば新しい形での継承が期待できる。また、事業に協力してもらえる個人・団体との交流はさらなる事業の発展につながるかもしれない。